

B C P

初 動

マ ニ ュ ア ル



一般社団法人日本自動車整備振興会連合会（日整連）
日本自動車整備商工組合連合会（整商連）

バージョン 1.00

改訂履歴

種別	年月日	事由
制定		初版制定
改訂		
改訂		

所管・改訂

1. 本マニュアルは**総務部**が所管する。
2. 本マニュアルの改訂は**社長**の決裁による。
3. ただし、組織名称の変更や人事異動に伴う所属・メンバーの変更、各種帳票の改訂などの軽微な修正については、**総務部長**の承認事項とする。

初動マニュアルをチューンアップ!!①



【対象】 全般

1. マニュアルの文章中に、**緑の太文字**で示した場所・名称・役職等を、会社の状況に即して書き換えましょう。また、項目の追加・削除・変更も同様に行ってください。

※チューンアップができれば、この枠と文章をマニュアルから削除してください。

目次

第1章 初動の対応	1
[1] 初動マニュアルについて.....	1
[2] 災害が発生したら.....	2
[3] 会社周辺で懸念される災害と避難場所.....	4
第2章 一人ひとりの行動	13
[1] 工場・事務所にいるとき	13
[2] 業務で外出、または出退勤途上るとき	14
[3] 就業時間外（夜間・休日）	15
第3章 会社の初動体制	16
[1] 災害対策本部の設置	17
[2] 災害発生前後の行動一覧.....	20
[3] 南海トラフ地震臨時情報への対応	22
[4] 台風・集中豪雨への対応	23
[5] パンデミックへの対応	25
第4章 初動のポイント	27
[1] 避難場所と災害リスク情報を調べる	27
[2] 避難指示に従う.....	32
[3] 家族で防災会議を開く.....	33
[4] 社員と家族の安否を確認する.....	35
[5] 南海トラフ地震臨時情報に備える	36
付録 初動リスト	38
[1] 災害対策本部メンバーリスト	38
[2] 安否確認状況とりまとめ表.....	39
[3] 情報収集サイト一覧.....	40
[4] 備蓄品管理リスト	41
[5] 風水害対策チェックリスト.....	44
[6] 被害状況チェックリスト	50



第1章 初動の対応

[1] 初動マニュアルについて

初動マニュアル（青本）の趣旨と内容は、以下のとおり。

1. 青本は、災害時の社員とお客さまの安全・安心を図り、自動車整備工場としての責任を果たすために、災害の直前・直後に行わなければならない事項と、正しい防災知識に基づいて行動（防災活動）するためのノウハウをまとめている。
2. 第1章に地震、台風・集中豪雨、パンデミック（感染症の世界的流行）が実際に発生した直後、または発生が予見されるときに社員一人ひとりおよび会社としての行動の要点を載せている。また、国土地理院の「重ねるハザードマップ」を利用して取得した会社周辺の被害想定と避難場所のマップを載せている。
3. 第2章に災害時、特に突然の地震発生のように、まず自らの安全確保を最優先にする状況における、社員一人ひとりの行動ルールを定めている。
4. 第3章に災害時の会社の対応について、災害対策本部の体制と災害発生（南海トラフ地震、台風・集中豪雨、パンデミック）の違いを踏まえた対応事項を載せている。
5. 第4章に災害時の被害影響を少しでも減らすために、取り組むべき事項を初動のポイントとして載せている。
6. 付録に災害時に、災害対策本部が使用する各種リスト、チェックリストを載せている。
7. 姉妹編の事業継続マニュアル（赤本）は、青本がカバーする初動の対応に続いて、災害時に自動車整備工場として取り組む業務と、平常時から業務継続のために取り組む業務（BCM:事業継続マネジメント）についてまとめている。

[2] 災害が発生したら

●地震の発生



一人ひとりの安全確保、周囲への声かけ

立っていることが困難になるような地震が発生した場合は、**周囲に声かけして、物の落下や転倒を避けて机やテーブルの下に隠れ、揺れが収まるのを待つ。**



工場・事務所からの避難

揺れが収まるのを待って、**周囲に声をかけて建物の外に出る。**なお、避難の際には**重要書類のロッカーの施錠、ガス元栓を閉めたりブレーカーを落としたりすることを忘れずに。**



地震・津波情報の確認

ラジオ・テレビ・インターネットで地震情報を確認する。**津波の危険がある場合は、速やかに高台へ避難すること**が肝心。



初期消火

火災を発見した場合は、手近にある消火器を使用する。うまく消えず**天井まで火が届くようになってしまったら、自分の安全を優先して待避し、速やかに消防署へ連絡する。**



家族の安全確保と安否報告

夜間・休日等の在宅時であれば、**まず家族の完全確保を優先する。**その後、**自分と家族の安否状況を上司に報告する。**無事であることも大切な情報。**必ず報告すること。**



帰宅・残留

勤務中であれば、**責任者の指示で全員帰宅（外出者は責任者に連絡をして帰宅）**することを原則とする。なお、**道路・交通状況によっては帰宅困難となる可能性もあるため、上司の指示があった場合は、会社に残留する。**

参集

夜間・休日等の在宅時であれば、一般社員は道路・交通が復旧し、会社から指示があるまで出勤する必要はない。ただし、災害対策本部メンバーは家族の安全確保（避難等）ができた段階で参集する。

災害対策本部の設置

速やかに災害対策本部を設置する。事前に指名した社員が災害対策本部メンバーとして任務に当たる。なお、本社が被害を受けた場合は、あらかじめ指定した場所に代替対策本部を設置する。

地域協力

地域住民や避難者から避難、救助要請、トイレ利用の希望、水・食料の要請などがあった場合は、可能な限り応える。

◎ 台風の到来

台風発生を知る

台風は発生した直後から気象情報として発表される。6月～10月にかけての台風シーズンは、ニュース（特に日本に到達すると予想される場合は取り上げられる。）に注意し、早めの情報収集を心がける。

台風接近前の防水・防風対策

早めに知ることができれば、3日前ぐらいから少しずつ事前の対策ができる。結果的に台風が到来しなくても、事前の防水・防災の準備を進める。

“ゼロアワー”は自宅待機

台風が会社に到達する時間を“ゼロアワー”という。この時間の12時間前、少なくとも数時間（状況で判断）は、会社を無人とし、全員、自宅で待機すること。実際に被害が発生した場合は、災害対策本部を設置する。

◎パンデミック（感染症の世界的流行）の発生

パンデミック発生を知る

海外での発生であっても、**感染者の国内流入の可能性を考慮**して、情報収集を続けるとともに、海外出張を中止し、マスク・消毒液等の備蓄品を確認して不足がないようにしておく。

政府対策本部の設置（国内発生 of 懸念）

政府対策本部の設置に伴い、**行政、関係団体の要請や指導を受け入れる**。併せて社内の感染予防体制を整える。

国内で感染症発生

災害対策本部を設置する。ただし、感染予防の観点からメンバーは最小限にして、**感染予防体制を立ち上げ、実施**する。

さらに感染拡大（社内発生）

感染者への自宅待機指示、勤務時間中に症状が現れた**感染者の隔離**を行うとともに、**会社閉鎖、消毒を実施**する。これらの対応をお客さま、取引先へ報告し、ホームページにも公表する。

[3] 会社周辺で懸念される災害と避難場所

◎懸念される災害

災害の種類	名称・内容	懸念される理由
地震	南海トラフ地震	南海トラフ地震防災対策推進地域にあり、震度 6 弱の揺れと液状化の危険度中であることがハザードマップで確認されるため。
津波	南海トラフ地震	南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域にあり、津波により 30cm 以上の浸水が想定されているため。
台風・集中豪雨	土砂災害	土砂災害警戒区域内にあり、急傾斜地の崩壊の危険性があるため。

災害の種類	名称・内容	懸念される理由
	洪水災害・浸水害（内水 氾濫）	堤防の決壊や河川水が越えたりすると、0.5～1m未満の浸水深になる危険性がハザードマップで確認されるため。 また、近所の用水路や下水道があふれると、0.5～1m未満の浸水深になる危険性がハザードマップで確認されるため。
	暴風による災害	平成×年台風第×号で突風が発生し、工場の屋根が剥ぎ取られた被災経験があるため。
	高潮・高波による災害	標高が低く、海岸から××mしか離れていないため。
パンデミック（感染症の世界的流行）	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	緊急事態宣言に伴い事業の継続が求められる事業者に該当すること。社員が感染すると業務が続けられないため。

初動マニュアルをチューンアップ!!②



【対象】◎懸念される災害

1. 会社の所在する場所ごとに、懸念される災害は異なります。国土地理院のハザードマップポータルサイトの「重ねるハザードマップ」、および「わがまちハザードマップ」で調べてみましょう。
2. 詳しい調べ方は、「第4章【1】避難場所と災害リスク情報を調べる “ハザードマップポータルサイト”で調べる」を参照してください。
3. 「災害の種類」には、地震、津波、台風・集中豪雨（土砂災害、洪水災害・浸水害、暴風による災害、高潮・高波による災害）、パンデミックを記入してください。
4. 「災害の種類」地震および津波について
 - 日本国内はどこでも地震が起こる可能性があるため、「地震」を必ず記載してください。
 - また、沿岸部や津波が遡上（そじょう）する河川沿いに会社が所在する場合は、「わがまちハザードマップ」で確認して、「津波」を記載してください。
 - 地震・津波とも「名称・内容」には、「わがまちハザードマップ」か、直接市区町村の防災ホームページを検索して、そこに明示されている地震名を記入してください。ただし、分からなければ名称は不要です。
 - 地震の「懸念される理由」には、ハザードマップから読み取れる会社所在地の震度、液状化の危険度を記入してください。
 - 津波の「懸念される理由」には、「重ねるハザードマップ」から読み取れる津波浸水想定（水深）を記入してください。

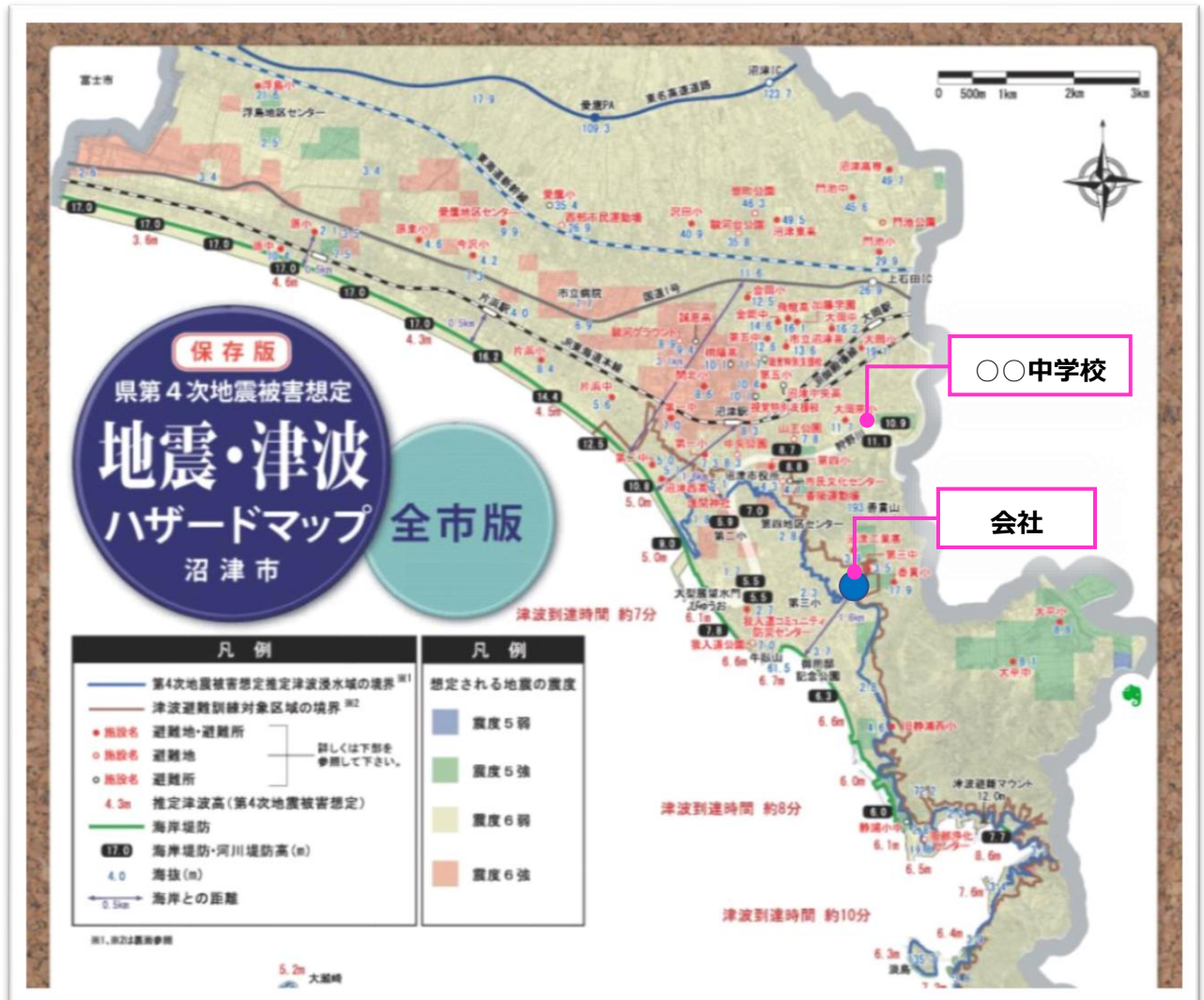
- 南海トラフ地震については、「防災対策推進地域」と「津波避難対策特別強化地域」が指定されています。以下の URL で調べ、該当する場合は「懸念される理由」に記入してください。
南海トラフ地震防災対策推進地域・南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域：
http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/nankaitrough_shichouson.pdf

5. 「災害の種類」台風・集中豪雨について

- 地震に比べて、台風が懸念される地域には偏りがありますが、集中豪雨は国内どこでも起こります。よって、「台風・集中豪雨」は必ず記載してください。
- ただし、「名称・内容」に記載する災害の種類については、会社の立地で判断してください。沿岸部でなければ「高潮・高波による災害」は該当しません。
- 台風・集中豪雨の「懸念される理由」には、「重ねるハザードマップ」から読み取れる会社所在地の土砂災害、洪水、高潮について記入してください。
 - ◇ 土砂災害については、「重ねるハザードマップ」から急傾斜地、土石流、地すべり、雪崩等の警戒区域が分かります。
 - ◇ 洪水については、「重ねるハザードマップ」から洪水浸水想定区域と水深（想定最大規模）等が分かります。
 - ◇ 内水氾濫については、重ねるハザードマップに掲載がないため、「わがまちハザードマップ」を確認してください。
 - ◇ 高潮については、「重ねるハザードマップ」から高潮浸水想定区域と水深（想定最大規模）が分かります。
 - ◇ なお、「暴風による災害」については、過去に台風、竜巻等の履歴があれば記入してください。
- いずれの区域にも該当しない、過去に暴風の履歴も確認できない場合は、「災害の種類」に台風・集中豪雨を記載したままで「名称・内容」、「懸念される理由」は空欄にしておいてください。

※チューンアップができれば、この枠と文章をマニュアルから削除してください。

地震の発生と避難場所（沼津市に所在するとした架空の会社のケース）



出典： 県第4次地震被害想定 地震・津波ハザードマップ、沼津市

クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示 4.0 (<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>)

災害の発生	<ul style="list-style-type: none"> ● 南海トラフ地震 ● 震度 6弱
避難場所	〇〇中学校

初動マニュアルをチューンアップ!!③

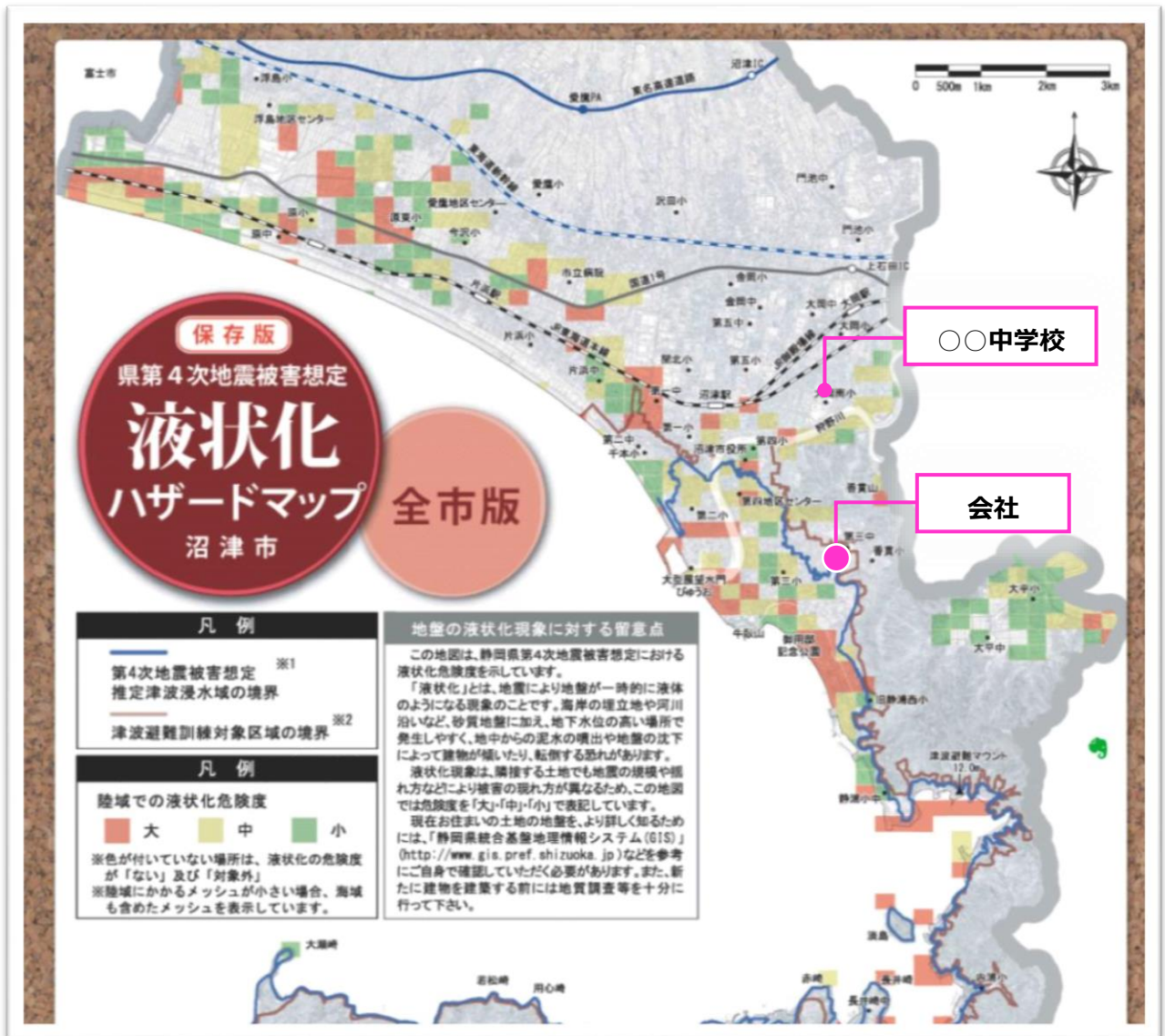


【対象】 災害の発生と避難場所

1. チューンアップ!!②「懸念される災害」で調べた地震（あれば液状化も）、津波、土砂災害、洪水の地図を切り出して貼り付けてください。
 - 地震については、「わがまちハザードマップ」、または市区町村窓口で直接入手した地図を使用してください。
 - 津波、土砂災害、洪水については、「重ねるハザードマップ」の地図を使用してください。
2. 「災害の発生」には、チューンアップ!!②「懸念される災害」で調べた災害の「名称・内容」、「懸念される理由」から概要を記入してください。
3. 「避難場所」には、市区町村から指定されている避難場所を記入してください。不明な場合は「重ねるハザードマップ」で表示される指定緊急避難場所としてください。
 - 指定緊急避難場所は災害種別ごとに異なります。例えば、地震は中学校、土砂災害は公民館と指定されるケースがあるので注意してください。
4. 地図の切り出しについて、紙の場合は必要な範囲をコピーしてマニュアルに貼り付けてください。「重ねるハザードマップ」等の画像の場合は、画面コピーと編集をして貼り付けてください。インターネットで「画面コピー 編集」と検索すると、詳しい方法が分かります。

※チューンアップができれば、この枠と文章をマニュアルから削除してください。

液状化の発生と避難場所（沼津市に所在するとした架空の会社のケース）

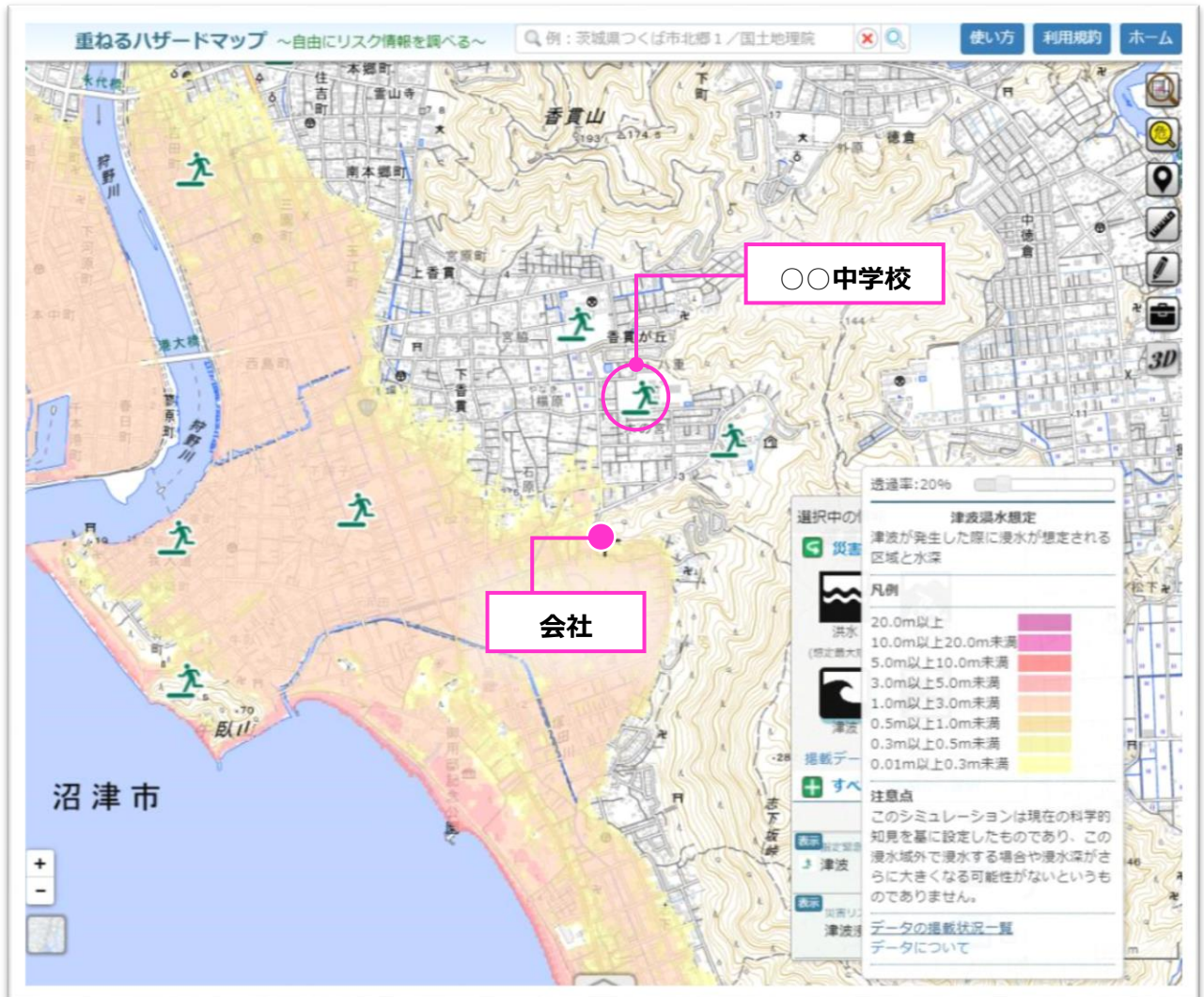


出典： 県第4次地震被害想定 液状化ハザードマップ、沼津市

クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示 4.0 (<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>)

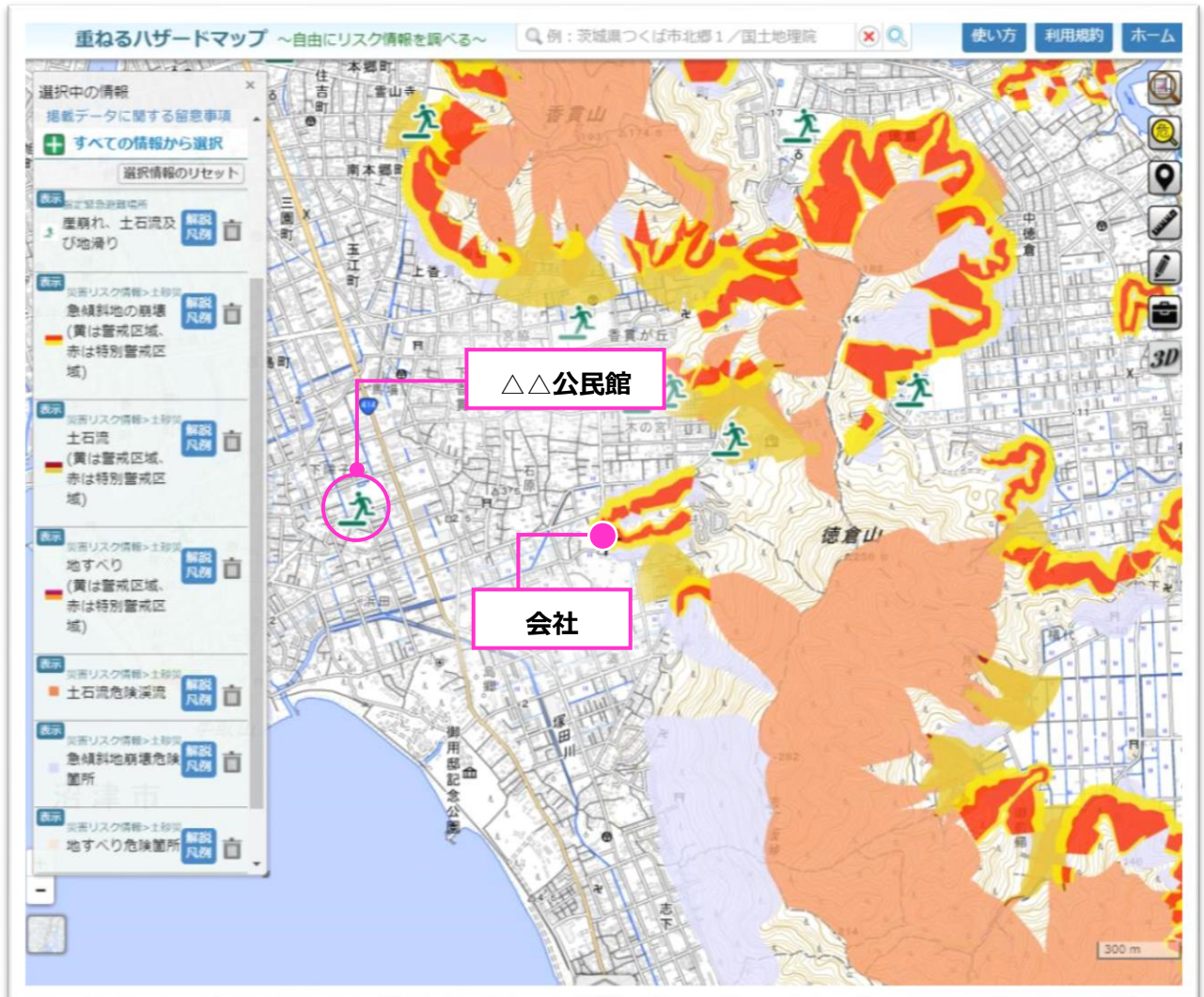
災害の発生	<ul style="list-style-type: none"> ● 南海トラフ地震 ● 液状化危険度 中
避難場所	〇〇中学校

津波の発生と避難場所（沼津市に所在するとした架空の会社のケース）



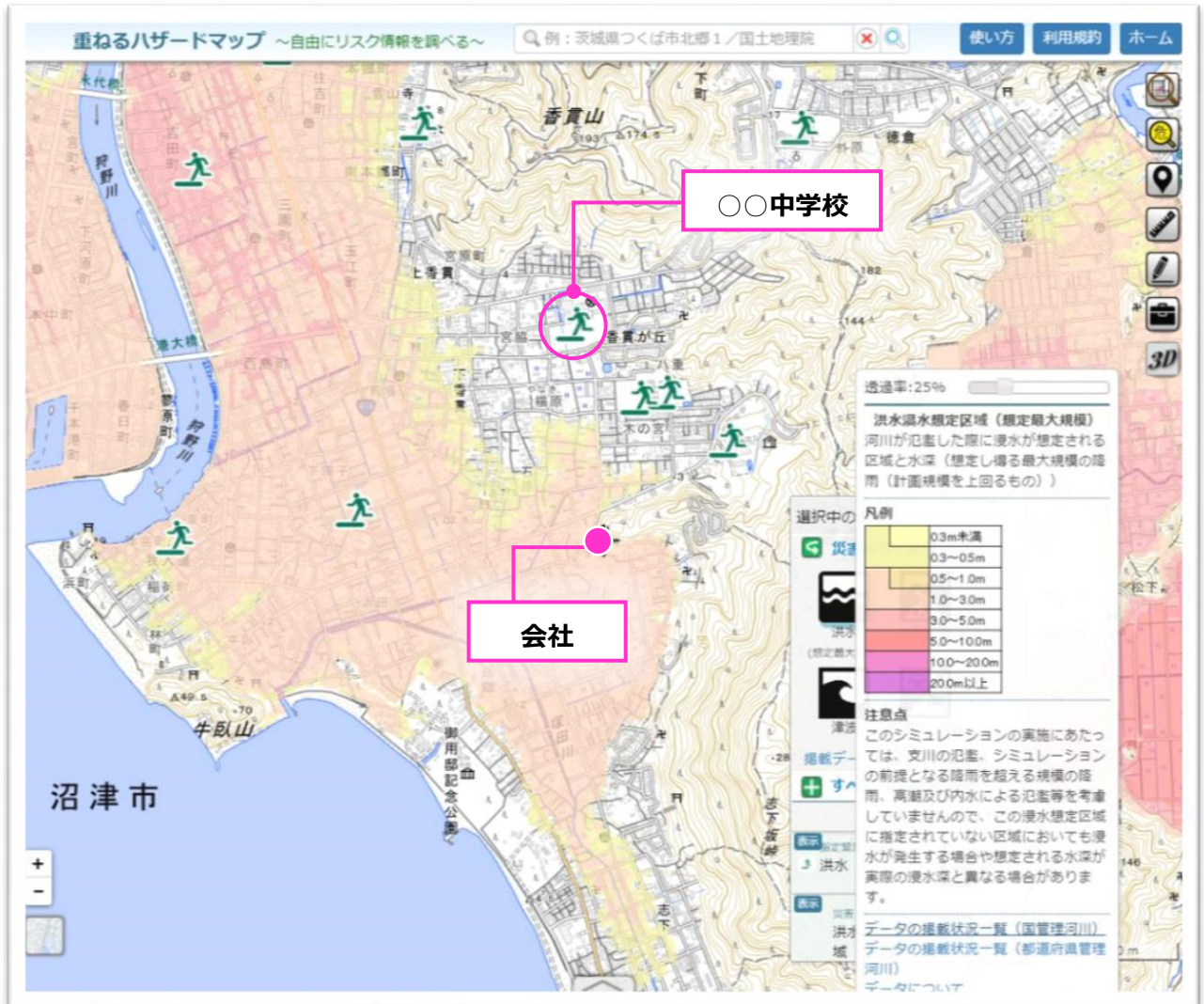
災害の発生	<ul style="list-style-type: none"> • 南海トラフ地震 • 津波浸水想定 0.3m以上 0.5m未満
避難場所	〇〇中学校

土砂災害の発生と避難場所（沼津市に所在するとした架空の会社のケース）



災害の発生	<ul style="list-style-type: none"> • 台風・集中豪雨 • 急傾斜地の崩壊警戒区域に該当
避難場所	△△公民館

洪水の発生と避難場所（沼津市に所在するとした架空の会社のケース）



災害の発生	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風・集中豪雨 ● 洪水浸水想定水深 0.5~1m
避難場所	〇〇中学校



第2章 一人ひとりの行動

災害時は、一人ひとりが「**自分の身は自分で守る**」ことを原則に、発生時間や自身の置かれた状況に応じて、自身と家族の安全を最優先に行動する。

[1] 工場・事務所にいるとき

状況・行動	内容
緊急地震速報が鳴動したり、小さな揺れを感じたりしたら	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ヘルメットをかぶり頭部を保護 <input type="checkbox"/> 窓ガラス、リフト、転倒しそうなロッカーのそばから離れる。 <input type="checkbox"/> 周囲にも、安全を確保するように呼びかける。 <input type="checkbox"/> 揺れが収まるのを待つ。慌てて外に飛び出さない。 <input type="checkbox"/> 出火の原因となるものがないか、周囲を確認
もし、火災を発見したら	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 大声で火災発生を周囲に知らせる。 <input type="checkbox"/> 消火器や屋内消火栓で初期消火 <input type="checkbox"/> 天井まで炎が届く勢いになったら退避、119番通報
早めの避難	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 津波の危険がある場合は急いで高台へ <input type="checkbox"/> 火災の発生、周辺からの類焼の恐れがある場合 <input type="checkbox"/> 自治体から避難指示¹が出た場合 <input type="checkbox"/> 重要書類ロッカーの施錠、ガス栓の閉止、漏電ブレーカーの遮断をする。
不明者・けが人の確認と救護	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自分の周囲に負傷者がいないか、建物、施設・設備・機械、ロッカー等の下敷きになっている者がいないか確認 <input type="checkbox"/> 負傷者がいたら、安全な場所に移動させる。 <input type="checkbox"/> 応急救護、重傷の場合は、119番救急車を要請 <input type="checkbox"/> 救急車到着に時間がかかる場合は、医療機関に相談して、搬送
家族・自宅 ² の状況確認	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事前に家族と取り決めておいた連絡方法で、家族の安否確認や自宅の被災状況を確認 <input type="checkbox"/> 家族・自宅が被災した場合は、上司に報告
場合に応じて、社内に残留	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 道路や駅の混乱や救助・消火活動を優先するために規制がかかり、帰宅ができない場合、社内に残留 <input type="checkbox"/> ただし、家族の引き取り、看護、救護等やむを得ない理由がある場合、上司の許可を受けて帰宅する。

¹ 洪水、土砂災害等の「警戒レベル4相当」、自治体から避難勧告が発表された事態を想定 第4章 [2] を参照する。

² 災害に備えて、家族で防災会議を開く。第4章 [3] を参照する。

[2] 業務で外出、または出退勤途上するとき

状況・行動	内容
緊急地震速報が鳴動したり、小さな揺れを感じたりしたら	<input type="checkbox"/> カバン等で頭部を保護 <input type="checkbox"/> 建物の倒壊、ガラス・看板の落下等周囲の状況に注意しながら、安全な場所へ移動 <input type="checkbox"/> 揺れが収まったら周囲の状況を見渡し、安全確認
車の運転中だったら	<input type="checkbox"/> 路肩に車を止め、エンジンを止めてキーはかけたまま車から離れる。 <input type="checkbox"/> 車を離れる場合は、できるだけ業務資料と車検証を持ち出す。
場合に応じて、避難	<input type="checkbox"/> 現在地に津波の危険がある場合は急いで高台へ <input type="checkbox"/> 現在地の自治体から避難指示が出た場合
安否確認に応える	<input type="checkbox"/> 安否確認に応答する。 <input type="checkbox"/> 自分と家族の安否状況を報告する。無事であることも大切な情報
安全な場所で待機、移動	<input type="checkbox"/> 原則として安全な場所で待機することとし、むやみに移動しない。 <input type="checkbox"/> 移動が可能になった場合、道路・交通状況や距離等を考慮し、以下のうち最も安全と考えられる行動をとる。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 出社/帰社 ➢ 帰宅 ➢ 最寄りの別の一時避難場所等に移動して待機 <input type="checkbox"/> 自身の状況を上司に報告

初動マニュアルをチューンアップ!!④



【対象】 安否確認に応答する

1. 災害時の安否確認は重要です。安否確認の方法は多種多様なため、会社の状況（社員数、費用負担等）に即した方法を選択しましょう。
2. 検討に当たっては、「第4章 [4] 社員と家族の安否を確認する」を参照してください。

※チューンアップができれば、この枠と文章をマニュアルから削除してください。

[3] 就業時間外（夜間・休日）

状況・行動	内容
緊急地震速報が鳴動したり、小さな揺れを感じたりしたら	<ul style="list-style-type: none"> □ 屋内にいる時は、丈夫な机・テーブルの下に隠れたり、ザブトン・クッション等を利用したりして頭部を保護 □ 揺れが収まるのを待つ。慌てて外に飛び出さない。 □ 屋外にいる時は、カバン等で頭部を保護し、建物の倒壊、ガラス・看板の落下等周囲の状況に注意しながら、安全な場所に移動 □ 家族に、安全を確保するように呼びかける。 □ ケガや出火がないか、周囲を確認 □ <車の運転中だったら> 路肩に車を止め、エンジンを止めてキーはかけたまま車から離れる。
場合に応じて、避難	<ul style="list-style-type: none"> □ 津波の危険がある場合は急いで高台へ □ 火災の発生、周辺からの類焼の恐れがある場合 □ （現在地の）自治体から避難指示が出た場合
安否確認に応える	<ul style="list-style-type: none"> □ 安否確認に回答する。 □ 自分と家族の安否状況を報告する。無事であることも大切な情報
そのまま自宅で待機	<ul style="list-style-type: none"> □ 会社から指示があるまで自宅（あるいは避難場所）で待機



第3章 会社の初動体制

初動マニュアルをチューンアップ!!⑥



【対象】 第3章 会社の初動体制 他

1. マニュアルの文章中に、**緑の太文字**で示した場所・名称・役職等を、会社の状況に即して書き換えましょう。また、項目の追加・削除・変更も同様に行ってください。
2. 災害対策本部の「設置場所」を記入してください。また、本社に設置できない場合の代替場所があれば記入してください。
3. 災害対策本部のメンバーを選定し、「付録 初動リスト [1] 災害対策本部メンバーリスト」を作成してください。
4. 災害対策本部の「体制および役割」について、「担当」を記入してください。ただし、人事異動を考慮して役職名のみの記入とします。
5. 災害対策本部長と事務局長については、必ず代行者を決めてください。各班長については、必要に応じて代行者を決めてください。
6. 総務班長・総務班の「役割」について、「付録 初動リスト [4] 備蓄品管理リスト」を作成してください。必要に応じて項目の追加・削除・変更を行ってください。
7. 「 [3] 南海トラフ地震臨時情報への対応」、「 [4] 台風・集中豪雨への対応」、「 [5] パンデミックへの対応」については、いずれも会社に被害が発生した場合には、災害対策本部を設置して対応するが、その前段階の警戒体制と位置づけています。
 「担当」には、平常時の役職名を記入してください。

※チューンアップができれば、この枠と文章をマニュアルから削除してください。

[1] 災害対策本部の設置

●設置基準

社長は、以下のいずれかの場合に、災害対策本部を設置する。

社員の安全や建物、施設・設備・機械、車両に大きな損害をもたらす災害が発生した場合

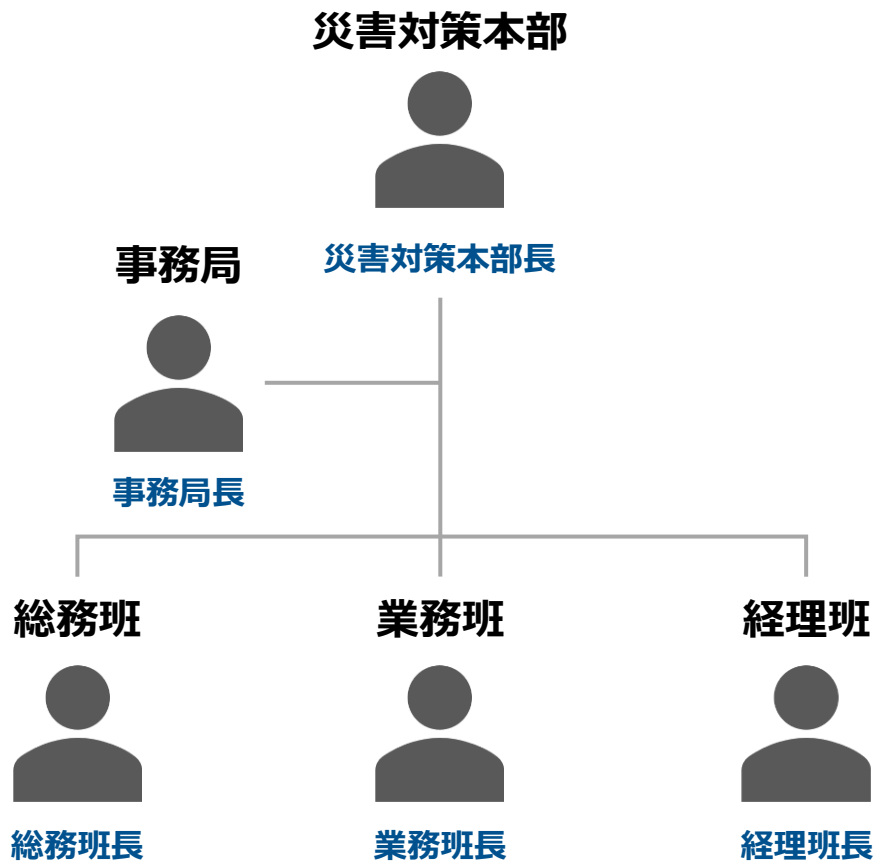
- 震度 6 弱以上の地震
- 5 段階の警戒レベル³を明記する避難情報が発表され、実際に被害が発生した場合（警戒レベル 5 相当）
- パンデミックにより国内で感染症が発生し、政府対策本部が設置された場合

●設置場所

1. 本社会議室に設置する。
2. 本社に設置できない場合は、○○支店に設置する。

³ 既に災害が発生している状況は警戒レベル 5 に相当する。第 4 章 [2] を参照。

◎体制および役割 



▶【付録 初動リスト】 [1]災害対策本部メンバーリスト

任務	担当	役割
災害対策本部長	社長 (代行：)	<ul style="list-style-type: none"> 災害時対応の最高責任者
事務局長	総務部長 (代行：)	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策本部長の補佐 災害対策本部の運営
総務班長 総務班	総務課長 総務課員	<ul style="list-style-type: none"> 安否確認 <ul style="list-style-type: none"> ▶【付録 初動リスト】 [2]安否確認状況とりまとめ表 負傷者対応 安否不明者の搜索 災害情報の収集 <ul style="list-style-type: none"> ▶【付録 初動リスト】 [3]情報収集サイト一覧 備蓄品の管理、配布 <ul style="list-style-type: none"> ▶【付録 初動リスト】 [4]備蓄品管理リスト

任務	担当	役割
		<ul style="list-style-type: none"> • 対外窓口、情報発信
業務班長 業務班	工場長 整備課員	<ul style="list-style-type: none"> • 情報システムの被害確認・復旧 • 建物、施設・設備・機械・工具、インフラ、車両等の被害確認 • 安全措置および応急復旧 <ul style="list-style-type: none"> ▶【付録 初動リスト】 [5]風水害対策チェックリスト ▶【付録 初動リスト】 [6]被害状況チェックリスト
経理班長 経理班	経理課長 経理課員	<ul style="list-style-type: none"> • 金融機関の稼働状況の確認 • 印鑑、通帳等の貴重品の保全 • 災害対応に必要な資金の確保

◎緊急参集の判断




就業時間外（夜間・休日）に、災害対策本部設置基準に該当する恐れのある災害が発生した場合は、メンバーの緊急参集の必要を判断する。

1. **総務部長**は、災害対策本部の設置と緊急参集の要否を検討する。その内容を**社長**に報告し、判断を仰ぐ。
2. 緊急参集が必要と判断された場合、**総務部長**は、参集場所・時刻を決定のうえ、電話・メール等で招集をかける。
3. なお、災害の発生により緊急参集に危険が伴うことが予想される場合（夜間、津波警報の発令中、停電中等）、**総務部長**は参集よりも安全を最優先にする。
4. また、災害対策本部メンバーに連絡を取ることができない場合は、緊急参集を止める。メンバーは指示がない限り、自宅で待機する。

◎解散基準

災害対策本部長は、災害の事態が収束し、平常時の体制で業務実施が可能となった時点で、災害対策本部を解散する。

[2] 災害発生前後の行動一覧

局面	全社員	本部長	事務局長	総務班	業務班	経理班	対応		
							台風・集中豪雨 	地震 	パンデミック 
直前・直後									
災害の発生			●	●			台風発生・気象庁発表 (5日前)		
			●	●			集中豪雨予報 (前日～数時間前) 警戒レベル 3, 4 相当の発表		
	●							突然の発生	
		●	●	●	●	●		<南海トラフ地震臨時情報の発表：警戒体制スタート>	
			●	●					<海外発生> <input type="checkbox"/> 情報収集 <input type="checkbox"/> 備蓄品の確認・調達
安全・安心の確保			●	●			<input type="checkbox"/> 台風進路情報の入手：警戒体制スタート <input type="checkbox"/> 水防・風防の指示 (3日前)		<国内で発生懸念> <input type="checkbox"/> 勤務体制の検討 <input type="checkbox"/> 職場衛生の準備・周知
	●						<input type="checkbox"/> 水防・風防の実施 (～1.5日前) <input type="checkbox"/> 戸締り・帰宅 (半日前) <input type="checkbox"/> 会社は無人、全員自宅待機 (ゼロアワー)	<input type="checkbox"/> 自身の安全確保 (頭部保護、転倒・落下物注意) <input type="checkbox"/> けが人の救出・救護 <input type="checkbox"/> 避難	
	●						<集中豪雨> <input type="checkbox"/> 「警戒レベル 3 相当」お客さまの帰宅 <input type="checkbox"/> 「警戒レベル 4 相当」避難開始 <input type="checkbox"/> 「警戒レベル 5 相当」会社で安全確保		
			●	●	●			<南海トラフ臨時情報> <input type="checkbox"/> 対策本部の設置	<国内で感染症発生：警戒体制スタート> <input type="checkbox"/> 出張・会議の中止

局面	全社員	本部長	事務局長	総務班	業務班	経理班	対応		
							台風・集中豪雨 	地震 	パンデミック 
									<input type="checkbox"/> 出勤体制の変更 <input type="checkbox"/> 職場衛生の周知
初動									
災害対策本部設置		●	●	●	●	●	<会社・周辺で被害発生> <input type="checkbox"/> メンバー参集		
		●	●	●					<緊急事態宣言> <input type="checkbox"/> メンバー参集 (最小人数)
初動の対応			●	●			<input type="checkbox"/> 安否確認 <input type="checkbox"/> 備蓄品の配布 <input type="checkbox"/> 対策本部会議の運営 <input type="checkbox"/> 被害情報の収集 <input type="checkbox"/> 外部(支部、取引先等)への連絡		
			●		●		<input type="checkbox"/> 自社被害の調査 <input type="checkbox"/> メンバー参集の計画 <input type="checkbox"/> 受託車の調査		
		●	●			●	<input type="checkbox"/> 印鑑・通帳の保全 <input type="checkbox"/> 資金の確保		
		●	●	●	●	●	<input type="checkbox"/> 対策本部会議の開催		
	●								<input type="checkbox"/> 行政の要請・指示の受入 <input type="checkbox"/> 原則、業務を継続実施 <input type="checkbox"/> 感染予防・拡大防止策の徹底
		●	●	●				<感染者発生> <input type="checkbox"/> 事業所の消毒 <input type="checkbox"/> 業務の休止判断	
後片付け	●						<input type="checkbox"/> 後片付け <input type="checkbox"/> 施設・設備・機械・工具の撤去、修理、回収		
BCP・重要業務 <事業継続マニュアル(赤本)参照>									

[3] 南海トラフ地震臨時情報への対応

南海トラフ地震臨時情報は、突然発表される可能性がある。

行動	担当	内容
警戒体制	社長 総務課	<input type="checkbox"/> 業務休止の決定 <input type="checkbox"/> 南海トラフ臨時情報の伝達 <input type="checkbox"/> 社員への指示 <input type="checkbox"/> 防火等の応急措置および各設備の点検 <input type="checkbox"/> 時差退勤の決定および残留者の確認
業務休止	社長 総務課	<input type="checkbox"/> 社員へ通知 <input type="checkbox"/> 来客者へ帰宅を促し、基本的には帰ってもらう。 <input type="checkbox"/> 社外へ通知（HP、電話連絡等）
会社での対応 ＜就業時間内＞	全社員	<input type="checkbox"/> 地震発生に備え、転倒防止・落下防止等の危険な状況を排除 <input type="checkbox"/> 高所に置かれているものを地上に降ろす。 <input type="checkbox"/> 火気使用は一切禁止 <input type="checkbox"/> ガスの元栓を閉じる（プロパンガスの場合はボンベの元栓を締める）。 <input type="checkbox"/> 電気・灯油ストーブは速やかに消し、コンセントも抜く。 <input type="checkbox"/> 危険物については安全措置を講じた上で保管 <input type="checkbox"/> 地震発生時に環境汚染(燃料等の流出など)が起きないように対応 <input type="checkbox"/> 引出し・引き戸をガムテープで止める。 <input type="checkbox"/> 重要書類・貴重品を耐火金庫に入れる。 <input type="checkbox"/> 外出者には状況に応じて連絡を取り帰社を促す。帰社に時間がかかる場合には直帰させる。 <input type="checkbox"/> 緊急対応終了後、その後の対応メンバーを残し、他は速やかに帰宅 <input type="checkbox"/> 公共交通機関利用者を優先して帰宅させる。 <input type="checkbox"/> 電話は、臨時休業時の「留守番テープ」に切り替える。
会社での対応 ＜就業時間外＞	全社員	<input type="checkbox"/> 対策本部メンバーは原則、指示を受けて出社 <input type="checkbox"/> その他の社員は自宅待機 <input type="checkbox"/> 出勤途中の場合、一般の社員は帰宅し自宅待機 <input type="checkbox"/> 終業後帰宅時の場合、そのまま速やかに帰宅し自宅待機 <input type="checkbox"/> 休日・夜間在宅時の場合、自宅待機を原則とする。

災害対策本部は、警戒体制とともに設置することも可とするが、人命安全の観点から基本的には発生後の設置とする。

[4] 台風・集中豪雨への対応

台風等の気象災害については、**総務課**が担当し、気象・防災情報などから早めの情報収集に努めて、先回りした対応をする。

時間経過	気象・防災情報等	担当	内容
1. 台風の覚知			
台風到来の5日前 台風の到来を覚知	台風予報	総務課	<input type="checkbox"/> 定期的なニュース視聴、インターネット確認
3日前 台風対策の立案 警戒体制スタート	市町村避難方針の発表	総務課	<input type="checkbox"/> 台風情報（規模・到達場所・時間等）の確認 <input type="checkbox"/> 対応メンバーの選定、配置 <input type="checkbox"/> 営業時間・期間の検討 <input type="checkbox"/> 業務実施方針（事務、会議、出張等の中止）の検討 <input type="checkbox"/> 自宅待機／帰宅方針の検討 <input type="checkbox"/> 災害弱者・遠距離通勤者を優先する。 <input type="checkbox"/> 防災用品の確認
2. 台風対策の実施			
3日→1.5日前 台風対策の実施： フェーズ1	気象庁、台風に関する記者会見 鉄道・航空等ホームページで運行停止予告	総務課	<input type="checkbox"/> 台風情報（規模・到達場所・時間等）の確認 <input type="checkbox"/> 会議・出張の中止指示
1.5日前 台風対策の実施： フェーズ2	避難所の開設	工場長	<input type="checkbox"/> 対応メンバーの配置 <input type="checkbox"/> 会社閉鎖の通知 <input type="checkbox"/> 車両・資機材の退避 <input type="checkbox"/> 浸水・強風影響箇所の点検、補強 <input type="checkbox"/> 水防資材の設置・配備
3. 台風の到達 1日前			
24時間前 台風対策の実施： フェーズ3	気象庁、台風に関する記者会見（特別警報発生の可能性あり）	社長	<input type="checkbox"/> 業務停止の決定 <input type="checkbox"/> 自宅待機／帰宅を指示
24時間→18時間	大雨警報・洪水警報	総務課	<input type="checkbox"/> 防災対策の再点検指示

時間経過	気象・防災情報等	担当	内容
前 台風対策の実施： フェーズ4	等（警戒レベル3相当）の発表 鉄道・航空等運行停止手順の公表		
18時間前	土砂災害警戒警報（警戒レベル4相当）の発表		18時間前までに全ての対策を終えておくこと！！
18時間前→12時間前	はん濫警戒情報（はん濫警戒水位）（警戒レベル3相当） 大雨特別警報（警戒レベル5相当）・暴風特別警報・高潮特別警報（警戒レベル4相当）・波浪特別警報の発表 避難指示・勧告の発表		会社は無人、全員自宅待機
12時間前→台風到達（0時間）	はん濫危険情報（警戒レベル4相当） 水防団活動の実施 鉄道・航空等の運行停止		会社は無人、全員自宅待機
台風到達（0時間） “ゼロアワー”			会社は無人、全員自宅待機

4. 台風の通過

台風到達（0時間）→12時間後 安否確認	はん濫発生情報（警戒レベル5相当）の発表	総務課	<input type="checkbox"/> 安否確認 <input type="checkbox"/> 被害状況の確認指示
12時間後→3日後（72時間後）	警戒の継続／解除 鉄道・航空等の運行見通しの公表	社長	<input type="checkbox"/> 会社や周辺に被害が生じた場合は、設置基準に照らして、災害対策本部を設置する。

なお、梅雨時期の集中豪雨等、必ずしも事前の察知が可能となるわけでない。特に就業中に大雨等の危険が高まった場合は、以下の対応をする。

項目	対応
「警戒レベル 4 相当」の発表	<input type="checkbox"/> 地元自治体の「避難勧告」の発令を目安とするが、会社の判断でも可とし、避難を開始
「警戒レベル 5 相当」の発表	<input type="checkbox"/> 無理に避難せず、会社で安全を確保

[5] パンデミックへの対応

パンデミックの発生を知った際の対応を以下に示す。

実施時点	担当	実施内容
海外で発生した時点	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 海外での発生であっても、感染者の国内流入の可能性を考慮して、以下の対応をする。 <input type="checkbox"/> 情報収集（内閣官房、厚生労働省、国立感染症研究所、厚生労働省検疫所、外務省海外安全ホームページ等） <input type="checkbox"/> 情報に基づいて海外出張の中止、早期帰国指示の検討 <input type="checkbox"/> マスク、消毒液等備蓄品の確認、調達 <input type="checkbox"/> 手洗い、うがい等感染予防策の周知
国内での発生が懸念される時点	総務課	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 行政機関の要請、指導の受け入れ <input type="checkbox"/> 情報収集・冷静な判断（上記に加え、都道府県・保健所・市区町村 HP 等） <input type="checkbox"/> 感染確認の報告方法を検討 <input type="checkbox"/> 出社可否判断のルール化（“疑わしきは出社せず”を基本とする） <input type="checkbox"/> 出社前検温の指示 <input type="checkbox"/> 対応可能な部署での在宅勤務・時差通勤の検討 <input type="checkbox"/> 出張・会議・営業外回り抑制・中止の検討 <input type="checkbox"/> 飛沫、接触等の感染拡大防止策の指示
国内で感染が確認された時点	災害対策本部	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 災害対策本部の設置 <input type="checkbox"/> 感染拡大防止の観点から、当初は本部長、事務局長、総務班で編成し、順次必要に応じて班を招集する。 <input type="checkbox"/> 行政機関の要請、指導の受け入れ

実施時点	担当	実施内容
		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報収集と最新情報の管理 <input type="checkbox"/> 出社可否判断のルールの実施 <input type="checkbox"/> 社員・家族の感染状況把握 <input type="checkbox"/> 対応可能な部署での在宅勤務・フレックス勤務等の実施 <input type="checkbox"/> 出張・会議・営業の抑制・中止 <input type="checkbox"/> 備蓄品の配置 <input type="checkbox"/> 保健所・医療機関の連絡窓口確認 <input type="checkbox"/> 感染予防・拡大防止策の徹底
さらに感染が拡大した時点（社内発生含む）	災害対策本部	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 勤務中に症状が発現した者の隔離場所の確保 <input type="checkbox"/> 会社閉鎖の実施 <input type="checkbox"/> 行政機関の指示受け入れ <input type="checkbox"/> 社内の消毒 <input type="checkbox"/> 会社の警備業務の確認、閉鎖時の資産保全 <input type="checkbox"/> お客さま・取引先へ自社対応を報告 <input type="checkbox"/> ホームページで情報開示



第4章 初動のポイント

[1] 避難場所と災害リスク情報を調べる

🔍 “ハザードマップポータルサイト” で調べる

事前に工場や事務所が所在する最寄りの避難場所と、地震、津波、土砂災害、洪水等の災害の危険性を調べておく。

調査には、インターネットを利用し、国土交通省がインターネット上で運営する**重ねるハザードマップ・わがまちハザードマップ**を活用する。

重ねるハザードマップ・わがまちハザードマップとは

両方とも防災に役立つ災害リスクを地図にした、ハザードマップを検索できる防災情報サイトである。前者は、市区町村をまたがって地図や写真に自由に重ねて表示することができる。後者は市区町村が作成したハザードマップへリンクする。地域ごとの様々な種類のハザードマップが閲覧できるサイトである。

避難場所、洪水・土砂災害・地震・津波の災害リスクを調べる。

両サイトの URL は共



なお、このサイトは使用方法を動画や操作マニュアルで説明しているので、利用を勧める。



インターネットで公開されていない場合は

市区町村の中には、ハザードマップをインターネットで公開していないところもある。その場合は直接防災担当の窓口にお問い合わせ。

項目

内容

会社所在地の地震ハザードマップを探す。

- ① ハザードマップポータルサイトの“わがまちハザードマップ”を開く。



- ② 会社所在地の市区町村を選ぶ。
「まちを選ぶ」



- ③ 「地震防災・危険度マップ情報を表示」をクリックする。



項目	内容
----	----

- ④ 次の画面の吹き出し「震度被害マップ インターネットで公開している >>公開 URL を開く」および「地盤被害（液状化）マップ（以下同文）」をクリックする。

地元の市区町村の地震・津波等のハザードマップを確認する。



※沼津市の例

会社所在地の津波・土砂災害・洪水想定区域を調べる。

- ① ハザードマップポータルサイトの“重ねるハザードマップ”を開く。



項目	内容
② 会社所在地の「場所を入力」、住所を入力し、現れた地図の「表示する情報」の「津波」をクリックする。	

- ③ 会社所在地周辺の津波浸水想定区域と水深を見ることができる。



項目	内容
----	----

- ④ 画面の表「**選択中の情報**」の「**[表示]** 災害リスク情報 津波浸水想定」の「**解説凡例**」をクリックすると津波浸水想定の水深「**凡例**」を見ることができる。



- ⑤ 画面の表「**選択中の情報**」の「**指定緊急避難場所 津波**」をクリックすると避難場所の地図記号が表示される。
その記号をクリックすると避難場所の内容を確認する。

②に戻って、**土砂災害、洪水の想定区域**を調べることができる。



[2] 避難指示に従う

市区町村が、「避難準備の情報」、「避難勧告」、「避難指示」を発表する。

発表される内容は、洪水、土砂災害、高潮、内水氾濫に対する様々な防災気象情報と警戒レベルに基づく、避難に関するものである。ただし、津波については、レベル区分になじまないため対象外となっている。

自治体の避難勧告・避難指示は警戒レベル4で発表される。速やかに避難を開始すること。

出典： 内閣府（防災担当） 避難勧告等に関するガイドラインの改定～警戒レベルの運用等について～
http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/pdf/guideline_kaitei.pdf



●警戒レベルを用いた避難勧告等の伝達

※警戒レベルは、洪水、土砂災害、高潮、内水氾濫に用いる（津波はレベル区分になじまないため対象外）。

警戒レベル	居住者等がとるべき行動	行動を居住者等に促す情報	
警戒レベル5	既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をする。	災害発生情報※ ※災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令	市町村が発令
警戒レベル4	・指定緊急避難場所等への立退き避難を基本とする避難行動をとる。 ・災害が発生するおそれが極めて高い状況等で、指定緊急避難場所への立退き避難はかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合には、近隣の安全な場所への避難や建物内のより安全な部屋への移動等の緊急の避難をする。	避難勧告 避難指示(緊急)※ ※地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合等に発令	
警戒レベル3	避難に時間のかかる高齢者等の要配慮者は立退き避難する。その他の人は立退き避難の準備をし、自発的に避難する。	避難準備・高齢者等避難開始	気象庁が発表
警戒レベル2	ハザードマップ等により災害リスク、避難場所や避難経路、避難のタイミング等の再確認、避難情報の把握手段の再確認・注意など、避難に備え自らの避難行動を確認する。	注意報	
警戒レベル1	防災気象情報等の最新情報に注意するなど、災害への心構えを高める。	警報級の可能性	

上記の避難情報が令和3年6月以降大幅に変わる。主な変更点は以下のとおり。

- レベル3の「避難準備の情報」について、対象をより明確にして、いち早い避難につなげるため名称を「高齢者等避難」に変更
- レベル4の「避難勧告」と「避難指示」は違いが分かりにくいとして「避難指示」に一本化
- レベル5の「災害発生情報」は、住民の取るべき行動がわかりにくいとして、名称を「緊急安全確保」に変更

[3] 家族で防災会議を開く

災害に備えて家族で防災会議を開き、以下のような項目について話し合いをする。

出典： 東京都防災ホームページ 災害が起きる前に（自宅編）

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/bousai/1000027/1000286.html>



- 家の中で安全な場所はどこか
- 応急手当の知識を身につける
- 消火器具などの安全点検
- 火気器具などの安全点検
- 避難場所、避難道路の確認
- 家族の役割分担
- 万が一の際の家族との連絡方法・集合場所
- 非常持ち出し品の点検、置き場所の確認

また、日頃の家庭における防災対策を、チェックリストで確認しておくこと。

出典： 内閣府防災情報のページ 特集 家族で防災

http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h23/66/special_01.html



※次のページはコピーして、家庭で使用する。

防災チェックリスト一例

安否・避難確認

- 家族の安否確認の方法を話し合っている
- 自宅からの避難場所を確認している
- 会社や学校など外出先からの避難場所を確認している
- 避難場所までの経路を確認している

住宅の耐震性

- 家の耐震診断を受けた
- 家の耐震改修をした

家具の固定など

- 家具は倒れないように固定されている
- 家具の上に危険なものを置かないようにしている
- 寝る場所の近くには、倒れてきそうな家具はない
- 万が一、家具が倒れても部屋の出口はふさがれない
- ガラス付きの家具には、ガラス飛散防止フィルムを貼っている
- 食器棚等の観音開きの扉には、止め金をつけている

非常持ち出し品一例

- 飲料水
- 食品
- 貴重品（預金通帳、印鑑、現金）
- 救急用品
- 軍手
- 懐中電灯
- 下着
- 予備電池
- ろうそく、マッチ（火をつけるもの）
- ウェットティッシュ

外出時に携帯したいもの一例

- 身元や連絡先のわかるカードなど
- 病院の診察券、病名・処方薬を書いたメモなど
- 携帯ラジオ（状況を把握するため）
- メモ帳・筆記用具
- 笛
- 水
- チョコレートなど（閉じ込められたときの食料）
- ハンカチなど（口を覆うためなど）

※非常持ち出し品、外出時の携帯品には、あなたや家族にとって必要な「なければ困る」ものを入れましょう

[4] 社員と家族の安否を確認する

社員が在宅中の、突然の地震発生、台風や集中豪雨による洪水・土砂災害の際などに社員の安否を確認する。また、業務中に災害が発生したら、家族の安否が心配になるため、お互いの無事が確認できると安心である。安否確認の方法は以下のとおり。

場面	方法	選択肢	
安否確認	災害用伝言板を利用する方法	災害用伝言ダイヤル（171） https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/index.html	
		災害用伝言板（web171） https://www.ntt-east.co.jp/saigai/web171/	
		NTT ドコモ 災害用安否確認 https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/	
		au 災害用伝言板サービス https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/	
		ソフトバンク 災害用伝言板／災害用音声お届けサービス https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/	
		ワイモバイル 災害用伝言板サービス https://www.ymobile.jp/service/dengon/	
	SNS（ソーシャルネットワークシステム）を利用する方法	Twitter https://twitter.com	
		Instagram https://www.instagram.com/	

場面	方法	選択肢	
		Facebook https://facebook.com/	
		Mixi https://mixi.jp/	
	安否確認システムを利用する方法	ヤフーやグーグル等の検索サイトで「安否情報システム」をキーワードに検索する。	
行方不明者検索	インターネットを利用する方法	安否情報まとめて検索「J-anpi」 https://anpi.jp/top	
		Google パーソファイnder（安否情報）：日本 https://www.google.org/personfinder/japan/	

[5] 南海トラフ地震臨時情報に備える

南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まった際に「南海トラフ地震に関連する情報」が発表される。この情報の種類と発表条件は以下のとおり。

出典：気象庁 南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/info_criterion.html



情報名	情報発表条件
南海トラフ地震 臨時情報	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
南海トラフ地震 関連解説情報	<ul style="list-style-type: none"> 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く） <p>※ すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合がある。</p>

南海トラフ地震臨時情報は、情報名の後にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」等の形で情報発表される。

キーワード	各キーワードに付記する条件
「調査中」	<ul style="list-style-type: none"> • 下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 監視領域内（下図黄枠部）でマグニチュード6.8以上の地震が発生 ✓ 1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界（下図赤枠部）で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測 ✓ その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測
「巨大地震警戒」	<ul style="list-style-type: none"> • 想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード⁴8.0以上の地震が発生したと評価した場合
「巨大地震注意」	<ul style="list-style-type: none"> • 監視領域内において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く） • 想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合
「調査終了」	<ul style="list-style-type: none"> • 「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

⁴ 地震は地下の岩盤がずれて起こるもので、この岩盤のずれの規模（ずれ動いた部分の面積×ずれた量×岩石の硬さ）をもとにして計算したマグニチュードを、モーメントマグニチュード（Mw）と言う。一般に、マグニチュード（M）は地震計で観測される波の振幅から計算されるが、規模の大きな地震になると岩盤のずれの規模を正確に表すことができない。これに対してモーメントマグニチュードは物理的な意味が明確で、大きな地震に対しても有効である。ただし、その値を求めるには高性能の地震計のデータを使った複雑な計算が必要のため、地震発生直後迅速に計算することや、規模の小さい地震で精度よく計算するのは困難となる。








付録 初動リスト

[1] 災害対策本部メンバーリスト

平常時に作成
しておく

任務 ：担当役職	氏名	住所	連絡方法 ☎️携帯、📠固定、✉️メール
災害対策本部長 ：社長			
事務局長 ：			
総務班長 ：			
総務班員 ：			
総務班員 ：			
業務班長 ：			
業務班員 ：			
業務班員 ：			
経理班長 ：			
経理班員 ：			
経理班員 ：			

[3] 情報収集サイト一覧

種類	用途	URL
防災気象情報（気象庁）	気象庁による防災気象情報 気象警報や注意報、台風情報、過去の被害実績など	http://www.jma.go.jp/jp/warn/  
雨量・雷観測情報（例：東京電力）	電力各社から雷情報が入手可能 降ひょうは雷を伴うことが多いことから参考になる。	http://thunder.tepco.co.jp/  
民間気象情報（例：ウェザーニューズ）	民間気象会社による情報	http://weathernews.jp/index.html 
その他都道府県、市区町村防災ホームページ、NHK等		

[4] 備蓄品管理リスト

平常時に作成
しておく

種別	品名	数量	使用期限	備考
非常用ナップザック収容物	緊急医療セット			
	携帯ラジオ			
	懐中電灯			
	予備電池			ラジオ・電灯用
	現金			小銭
	テレホンカード			50 度数
	ライター			
	タオル			
	ポケットティッシュ			
	コップ			
	社員名簿			
	軍手			
	ゴミ袋			
	ウォーターパック			
	マスク			
	笛			
	ポストイット（付箋）			
筆記具				
その他（地図等）				

種別	品名	数量	保管場所	保管責任者
緊急滞在セッ ト	3WAY 毛布			
	エアークッション			
	軍手			
	レインコート			
	タオル			
	除菌ティッシュ			
	マスク			
	貼るカイロ			

種別	品名	数量	保管場所	保管責任者
	絆創膏			
	トイレ処理セット			
	ガーゼ			
	包帯			
	手回し充電ラジオライト			
緊急避難セット	懐中電灯 (単 1 電池×2 個)			
	保存飲料水 (500ml×1 本)			
	缶入り乾パン (100g)			
	ポンチョ			
	サバイバルシート			
	非常用給水バック (5L 用)			
	傷テープ (4 枚)			
	綿棒 (4 本)			
	ポケットティッシュ (1 個)			
	軍手 (1 双)			
	非常用持ち出し袋			
その他	非常用笛			
	ヘルメット			
	携帯用トイレット			
各種器材他	防水シート			
	土嚢袋			
	炊出し用具			
	備蓄食品			
	ロープ等			

※非常用備品の数量は、社員の人数、用途、目的等により判断し必要量を決める。

■ 災害対策本部メンバーが会社滞在に備えた食品・用品

種別	品名	数量	使用期限	備考
食品	水（飲料水、調理用など）			
	主食（レトルトご飯、麺など）			
	主菜（缶詰、レトルト食品）			
	缶詰（果物、小豆など）			
	野菜ジュース			
	菓子類			
	栄養補助食品			
	調味料（しょうゆ、塩など）			
生活用品	生活用水			
	救急箱			
	トイレトーパー			
	ティッシュペーパー、ウエットティッシュ			
	生理用品			
	使い捨てカイロ			
	ライター			
	ゴミ袋、大型ビニール袋			
	ラテックス手袋			
その他必需品	カセットコンロ、ガスボンベ			
	簡易トイレ			
	懐中電灯			
	乾電池			
	充電式などのラジオ			
	ビニール袋			
	食品包装用ラップ			

[5] 風水害対策チェックリスト

(1) 建物本体

チェックポイント	
①	<p>建物の亀裂箇所はないか</p> <p style="text-align: right;"><input type="checkbox"/>YES <input type="checkbox"/>NO</p>
留意点	<p>亀裂箇所にはコーキング材を注入するなど補修しておきます。但し、吸水性を有するコンクリートやALCに対するコーキング材での補修は、性状が異なるため、時間が経過すると新たな亀裂を生じる可能性があります。したがって、あくまでも応急的な措置ですので、亀裂が多発している部位については、改めて専門業者などによる改修をご検討ください。</p>
②	<p>屋上や屋根の排水路に詰まりがないか</p> <p style="text-align: right;"><input type="checkbox"/>YES <input type="checkbox"/>NO</p>
留意点	<p>土砂や鳥の糞などによって、排水路が詰まり、短時間に集中的な降水があった場合に水がたまり、機械類のある塔屋や階段扉より浸水するケースがあります。</p>
③	<p>屋上に雑草などが繁茂していたら、早めに除草しているか</p> <p style="text-align: right;"><input type="checkbox"/>YES <input type="checkbox"/>NO</p>
留意点	<p>目地や隙間に生えた雑草が根を張る力は意外と強いものです。シート防水層などの破損や建物内部に隙間を生じさせるおそれがあります。壁面の内側などに発生した隙間に溜まった水はなかなか抜けず、長期間の温度変化による影響が建物に深刻な漏水などの事態を招きかねません。</p>
④	<p>屋根、外壁に破損、ひび、変形、劣化などがないか</p> <p style="text-align: right;"><input type="checkbox"/>YES <input type="checkbox"/>NO</p>
留意点	<p>台風による建物被害の中では鉄板の屋根、外壁の破損が最も多く、鉄板はゆるみやズレがないよう内側の下地鉄骨に堅固に取り付けておきます。</p>
⑤	<p>屋根、外壁の留付部に破損、変形、劣化、ゆるみ、発錆などがないか 風圧による負荷が集中して破損しやすい屋根の頂上部やけらば、軒、外壁接合部など、建物の隅角部の強度は十分か</p> <p style="text-align: right;"><input type="checkbox"/>YES <input type="checkbox"/>NO</p>
留意点	<p>この部分はとくに被害を受けやすいので堅固に補強します。ステンレス製の接合材などで補強するのも効果的な方法です。</p>

⑥	風が吹き込む隙間、開口部は密閉されているか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
⑦	ダクト、雨樋などの留付け部に破損、変形、劣化、錆などがないか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
留意点	留付け金具の錆の進み具合を点検し、早めに交換するようにします。	

(2) 窓ガラス

チェックポイント

風による破損よりも、周辺からの飛来物による破損が多く見られます。窓ガラスが割れた場合、建物内への風雨の吹き込みにより被害が拡大するおそれがあります。また、飛散したガラスによる人身事故の危険性も高いため、建物内へ破片が散乱しないよう対策が必要となります。

①	窓ガラスには強化ガラスが使用されているか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
留意点	普通ガラスの場合には飛散防止用フィルムを貼付し、更にビニールテープなどで補強を施すと、破片の飛散防止に効果が得られます。	
②	窓枠のひび、破損、ガタつきなどは、確実な発見体制を敷き、早期に補修、修繕しているか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
③	重要な機械設備や装置が据付けられている部分の窓には、網入りガラスを使用するなどの対策を講じているか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
④	窓には、外側からの衝撃などによるガラス飛散防止に有効なブラインドが取り付けられているか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO

(3) ドア、シャッター

チェックポイント

外壁に比べ構造的に弱いドア、シャッターも被害を受けやすい部分です。軽量シャッターについては、設備自体の強化を施し、台風直前に不具合の箇所を補強するなどの緊急対策が必要です。

①	締まりの悪いものや、枠にガタツキがあるものはないか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
留意点	定期巡回や現場からの報告をもとに、早期に補修、修繕しておきます。 シャッターの溝を深くして安定度の強化を補完する、幅の広いシャッターは間柱を入れ、複数の幅の短いタイプに交換する、軽量シャッターをより重量のあるものに入れ替えるなどの改善を行います。	
②	軽量シャッターの補強は万全か	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
留意点	緊急対策として、土嚢などの重量物でドアやシャッターを両側から挟みつける。 開き戸タイプのドアには門（かんぬき）を取り付ける。	
③	浸水のおそれがある場所には防水シャッター、防水扉が設置してあるか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO

（４）屋外電気配線

チェックポイント

電力の供給は業務の継続には不可欠なものです。重要なケーブルが被害を受けると影響は非常に大きなものとなります。屋外電気配線の台風による被害形態としては、飛来物による断線、電柱や樹木が倒れたことによる断線、支柱からの外れなどがあります。

①	特に重要なメインケーブルは地下埋設されているか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
留意点	台風対策を考えた場合、断線のおそれがある空中架線に比べると地中埋設の方がより安心度が高いといえます。ただし、埋設管の強度や破損・劣化などがないか定期的に点検し、浸水することのないように備えます。できれば、予備ケーブルの確保も望めます。	
②	架空配線は防護管などで被覆されているか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
留意点	電線が風にあおられて樹木に接触しそうな箇所は特に注意します。また、使用しなくなった配線は撤去するか、撤去が後日となっている場合、確実に縁切りします。	
③	引き込み部などに過剰な重量負荷がかかっていないか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO

留意点	複数の電気配線や通信回線などの引き込み部および取り付け部に歪みやぐらつきがないかを点検します。特に、コンクリートやA L C版に取り付けられた留め具は壁の内部で発錆し、劣化しているケースもあり、定期的な点検と交換も必要です。
-----	--

(5) その他の屋外設備など

チェックポイント	
----------	--

①	屋外配管やその留付け部に破損、変形、劣化はないか	□YES □NO
②	屋外配管の支持物、支柱に破損、変形、劣化はないか	□YES □NO
③	空調機やネオンサインなどの留付け部に破損、変形、劣化はないか	□YES □NO
④	屋上や室外にあるエアコンの室外機、アンテナ、看板などには確実な固定策を講じているか	□YES □NO
⑤	屋外に置かれていて強風で飛ばされるおそれがあるものは、確実に固定されているか ・標識、看板、垂れ幕などの屋外備品	□YES □NO
⑥	除去して屋内に収容できるものは、確実に対処したか ・強風で飛ばされるおそれがある樹木の枝や植栽	□YES □NO
⑦	自動車は浸水危険が少なく強風を受けにくい場所に移動したか	□YES □NO

(6) 換気装置

チェックポイント	換気設備は通風をよくするための設備なので、台風時には風雨が浸入しやすく、被害を受けやすい部分のひとつです。また、屋根式の場合は風をはらみやすいので、とくに注意が必要です。
----------	---

①	壁式の場合、ウェザーカバーは脱落することのない頑丈な構造になっているか	□YES □NO
②	屋根式の場合、外板などは脱落することのない頑丈な構造になっているか	□YES □NO

(7) 野積みの動産

チェックポイント

各種資材や商品・備品などを屋外に野積みしていると、強風による直接被害だけでなく、野積み動産が吹き飛ばされて建物や他の設備を破損させるなどの間接損害が生じるケースが多く見られます。

①	野積みの動産は舗装された路面上に保管してあるか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
②	飛散などすることがないように固定されているか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
③	近くの建物にビニールシートが常備されているか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
④	台風接近時には短期間で屋内に収容できるか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO

(8) 排水路（内水氾濫対策）

チェックポイント

短時間に降水量が集中すると、構内の雨水を排水できず内水氾濫をきたすことがあります。

土壌の保水力を補完するために、草花や灌木の植栽（グリーンベルト）は効果があります。ただし、風で倒れるおそれがある高い木や側溝などの落ち葉の堆積には注意が必要です。

①	構内の側溝にゴミや堆積物がたまっていないか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
②	排水口周辺に堆積物や沈殿物はないか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
③	雨樋の破損や詰まりはないか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO
留意点	雨樋、排水路などの排水がスムーズであるかどうかを注意します。また、構外へ雨水が排出される経路全般の点検も必要です。	
④	排水路が溢水した場合に代替できる排水手段や経路はあるか	<input type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO

留意点	排水ポンプを使用する事態に備えて、緊急の排水先を確認しておくことが重要となります。
-----	---

(9) 地下空間への浸水対策

チェックポイント	地下や半地下の階層に浸水し、逃げ場がないため人的被害をもたらした事故も発生しています。また、ユーティリティ施設設備が設けられている場合も多く、外水氾濫（洪水）ばかりでなく、内水氾濫・溢水に対しても注意が必要です。
----------	--

①	排水経路は確実に維持されているか ～（8）に準じたチェックを行います。	□YES □NO
②	防水板や防水扉は機能できるようになっているか ～自動式の装置は、機器点検励行が肝要です。	□YES □NO
③	「からぼり」がある場合には、雨水やゴミが溜まったままになっていないか	□YES □NO

(10) 洪水・高潮による浸水対策

チェックポイント	河川の近くや水はけの悪い低地にある建物は、台風や集中豪雨による浸水被害を一層受けやすくなります。
----------	--

①	電気配線接続部、端子、スイッチなどは地面から高い位置に設置しているか	□YES □NO
②	水に弱い商品や原材料、仕掛品は高所に移動したか	□YES □NO
③	禁水性および有毒性の危険物は高所に移動したか	□YES □NO

[6] 被害状況チェックリスト

店舗名

報告書	部署・役職		報告日	/ /
	氏名		報告時刻	
			報告回数	第 報

※印についてはできるだけ速やかに災害対策本部に報告する

チェック項目	チェック結果（被害の有無・被害状況）	
(1) 人的被害の有無 ※	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】：死者__人、負傷者__人 (死傷者詳細)
(2) 建物		
1 火災 ※	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 判断不能 【詳細】：
2 全体の傾斜・沈下 ※	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 判断不能 【詳細】：_____
3 外壁	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> ひび割れ <input type="checkbox"/> 一部落下 <input type="checkbox"/> _____
4 屋根	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> ひび割れ <input type="checkbox"/> 破損 <input type="checkbox"/> 一部落下 <input type="checkbox"/> _____
(3) 工場		
1 危険物漏洩 ※	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】：_____
2 柱・梁	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> ひび割れ <input type="checkbox"/> 鉄筋・鉄骨露出 <input type="checkbox"/> 鉄筋の屈曲、鉄骨の破断
3 工場内設備 ※	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 一部破損・落下 <input type="checkbox"/> 広域破損・落下 <input type="checkbox"/> _____
4 車両	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 一部被害 <input type="checkbox"/> 大多数被害 <input type="checkbox"/> _____
5 内壁	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 一部破損 <input type="checkbox"/> 一部落下 <input type="checkbox"/> 広域落下 <input type="checkbox"/> _____
(4) 建物・工場立ち入り・使用※	<input type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 有 (状況詳細)
(5) 建物内	<input type="checkbox"/> 立ち入り可・使用不可 <input type="checkbox"/> 立ち入り不可 <input type="checkbox"/> 判断不能 (⇒立ち入り×)	
1 柱・梁	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> ひび割れ <input type="checkbox"/> 鉄筋・鉄骨露出 <input type="checkbox"/> 鉄筋の屈曲、鉄骨の破断
2 天井	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 一部破損 <input type="checkbox"/> 一部垂れ下がり <input type="checkbox"/> 一部落下 <input type="checkbox"/> 広域落下
3 内壁	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 一部破損 <input type="checkbox"/> 一部落下 <input type="checkbox"/> 広域落下 <input type="checkbox"/> _____
4 窓ガラス	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 開閉に支障 <input type="checkbox"/> 破損・脱落 <input type="checkbox"/> _____
5 ドア	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 開閉に支障 <input type="checkbox"/> 破損・脱落 <input type="checkbox"/> _____
	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】：_____
(6) ライフライン・設備		
1 電気	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 停電中 <input type="checkbox"/> 設備破損 <input type="checkbox"/> _____
2 上水道	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 断水中 <input type="checkbox"/> 設備破損 <input type="checkbox"/> _____
3 下水道・トイレ	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 不通 <input type="checkbox"/> 設備破損 <input type="checkbox"/> _____
4 内線	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 停電による使用不可 <input type="checkbox"/> 設備破損 <input type="checkbox"/> _____
5 外線（固定電話）	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 不通 <input type="checkbox"/> 設備破損 <input type="checkbox"/> _____
6 イントラネット	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 不通 <input type="checkbox"/> 設備破損 <input type="checkbox"/> _____
7 インターネット	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】： <input type="checkbox"/> 不通 <input type="checkbox"/> 設備破損 <input type="checkbox"/> _____
	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】：_____

(7) O A機器

1	P C	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】: <input type="checkbox"/> 一部破損 <input type="checkbox"/> 大量破損 <input type="checkbox"/> _____
2	プリンター	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】: <input type="checkbox"/> 一部破損 <input type="checkbox"/> 大量破損 <input type="checkbox"/> _____
3	F A X	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】: <input type="checkbox"/> 一部破損 <input type="checkbox"/> 大量破損 <input type="checkbox"/> _____
4	コピー機	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】: <input type="checkbox"/> 一部破損 <input type="checkbox"/> 大量破損 <input type="checkbox"/> _____
		<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 【詳細】: _____

(その他連絡事項)

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震 臨時情報	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
南海トラフ地震 関連解説情報	<ul style="list-style-type: none"> 観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合 「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く） <p>※ すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合がある。</p>

南海トラフ地震臨時情報は、情報名の後にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報（調査中）」等の形で情報発表される。

キーワード	各キーワードに付記する条件
「調査中」	<ul style="list-style-type: none"> 下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 監視領域内（下図黄枠部）でマグニチュード6.8以上の地震が発生 ✓ 1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界（下図赤枠部）で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測 ✓ その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測
「巨大地震警戒」	<ul style="list-style-type: none"> 想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード⁵8.0以上の地震が発生したと評価した場合
「巨大地震注意」	<ul style="list-style-type: none"> 監視領域内において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く） 想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合
「調査終了」	<ul style="list-style-type: none"> 「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合